



I-OWA マンスリー・セミナー講演より 元気はつらつ！インド経済

TATA アセットマネジメント アドバイザー
勝池 和夫氏
レポーター：赤堀 薫里

日本政府のこれからの投資対象であるインドの面積は、日本の約9倍。人口はほとんど中国と変わりません。中位年齢がインドは27歳。日本は47歳。米・中国は37歳。昨年日本で誕生した赤ちゃんは98万人、インドは2700万人と人口のスケールが大きく異なります。言語は、連邦公用語はヒンディー語、他に憲法で公認されている州の言語が21。しかし全ての言語を合わせると900だと言われています。宗教はヒンズー教が8割、イスラム教が14%、仏教が0.7%と様々あります。

首相はナレンドラ・モディ。この首相がバラバラのインドを一つにまとめようとしています。中国は9つ政党がありますが、インドは1,653あります。縦はカーストでバラバラ。ベジタリアンとノンベジタリアンがいる。山岳と海に囲まれた陸の孤島ですが、中もバラバラです。だから、この国は駄目だと思っていました。ところが今まとまりつつあります。モディさんは、「宗教対立がなく、カーストによる差別もない、汚職もテロもない、縁故主義もないインドを2022年の独立75周年までに作る！その日までに、新幹線を作る」と発表しました。



インド経済の魅力の一つ目は、人口です。人口も増加傾向で若い力が多い。また、ターメリックを多く摂取しているせいか、アルツハイマーにかかる率が世界で一番低い。日本と真逆です。

2つめはリーダーです。ナレンドラ・モディさんは汚職と無縁、合理的な思考、強力な政治基盤もあります。OECDが世界の主要国の政権支持率を出したところ、インドは73%。英国41%、米国



長期投資仲間通信「インベストライフ」

30%、日本は 36%と、世界で最も信認されている政府だということになります。だから高額紙幣の撤廃や、17 ほどあった間接税を撤廃することが出来る首相が出て来たわけです。

3 番目はインフラです。アメリカはトラックの輸送が 1 日に 800 km進むと言われますが、インドは 250 ~300 kmしか進まない。つまりそれだけ道路の整備が進んでいないということ。また、州をまたぐと税金が違うので検問所があり、そこで足止めされてしまいます。鉄道は、デリーとムンバイを結ぶ貨物列車の時速が 22 kmと言われています。東京～大阪間は時速 80 km。ムンバイ近郊の鉄道に関連した 1 年間で死亡する人数は 3,000 人。落下等で亡くなるというのがインドの実情です。インドの港で取り扱うコンテナの数は、上海の 1/4 の規模です。そのため日本の製造業はなかなか進出しません。それが今までの最大のネックでした。

今現在、一日当たりの道路の建設距離は 21 km。建設予定の鉄道は、ニューデリー～ムンバイ、ムンバイ～チェンナイ、チェンナイ～コルカタ、ニューデリー～コルカタ、ニューデリー～チェンナイ、ムンバイ～コルカタの 6 路線、総長 1 万 Km。日本の 3 倍です。2022 年までにニューデリー～ムンバイ間に産業大動脈で貨物専用線ができる予定です。速度が時速 70 kmですので、物流がかなり改善されます。道路は、モディさんが、マニプール州のモレからミャンマーを通り、タイまで続く高速道路を 2020 年までに作るように言っています。東京オリンピックまでにインドのインフラの状況はかなり変わっているでしょう。

4 番目はテクノロジーです。昨年の米大統領選挙でトランプ大統領が当選すると当てた AI の企業が世界で唯一インドにありました。IBM の CEO は、21 世紀はインドの時代だと言っています。ビルゲイツは、最近インドに行き、「あと 7 年でインドは最もデジタル化された経済になる」と言いました。

講演では、IMF の世界経済見通しについて、成長率を自動車の速度でわかりやすく解説。また、世界経済の重心移動と世界の GDP 構成比を、過去の推移や今後の予測について説明。インドの二つの成長エンジンは「追いつく力」と日本の高度経済成長期にはなかった「引っ張る力」と両輪であること。最後にインドに進出する日本企業の現状と今後の見通しの解説と 150 年間インド経済を牽引してきたタタ・グループの様々な事業を例に、今後のインドの経済の先行きの見通しをわかりやすく解説してくださいました。



I-OWA マンスリー・セミナー座談会より インド、中国から世界を見る

座談会： 勝池 和夫氏、参加者のみなさま
レポーター： 赤堀 薫里

勝池 | 中国、日本、インドを比べると、中国は、一帯一路インフラとか、万里の長城、製造業などを見てわかるように体を使う国です。インドはITの国ですから頭を使う国です。日本はサービス業が顕著な気を使う国です。つまりインドにないものが日本にあります。

先日、京都大学のAIの教授とランチをした時に、インドと日本の違いを聞きました。

インドは横です。いろいろなスパイスを横に並べて混ぜる。だからITのように横にインド人が広がる。横にあるものをまとめることに強い。

日本は発酵です。発酵は縦ですね。発酵させるには季節に寄り添いながら作り、ずっとそこを動かない。インド人は空気を読まないから忖度はない。日本の発酵的なものとインドのスパイス的なものを上手く融合させると、すごい競争力になると思います。



参加者 | インドの方から聞いた話ですが、インド人はITが得意で体を使わず頭を使う。個人プレーが得意だからアメリカでもエグゼクティブが多い。だけど集団行動が苦手、上手くすり合わせてコーディネートすることが苦手だから、インフラができないと言っていました。これからインフラが発展するとおっしゃっていましたが、その部分をどう克服するのでしょうか

勝池 | インドは確かにインフラに困っています。中国は体を使う国ですから、インフラが得意です。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

インドは不良債権の問題や、体を動かすことが弱い。オリンピックのメダルを見ても26しかないです。中国は500も600もあるでしょ？

インドには、中国のものがすごく入ってきています。モディさんは反対したけれど、実際のところはインフラを中国に手伝ってもらいたい。今回は日本が鉄道を作りますが、一番長い鉄道は中国が作るのかもしれないですね。

インフラに関しては、他国のお金や機械でできてくると思います。

参加者 | 中国は資金と人を一緒に輸出していますが、中国でも人手が不足していて人件費が上がってきています。このビジネスモデルは続かないのではないのでしょうか。

勝池 | でも今は、中国だけでなく、どこも人件費が上がっていますよね。インドの人件費は大体中国の半分ですよ。でも、バングラデシュと比べると倍。インドでも上がってきているのです。中国では、また物を作る人が増えている。ばらすより一か所でまとめた方がコストは安い。中国は内需がすごいですね。今まで言っていたチャイナ・プラス・ワンというものが戻ってきています。

今までのチャイナ・プラス・ワンといったら、ベトナム等でした。それが、今までの中国から別の中国になってきています。中国はインドより国土が広い。上海もあれば北京もあります。皆は中国全体の成長率を6~7%と言いますが、一番成長していないのが北京、上海です。一番成長している重慶は14%ですからね。

上海マーケットは、今まで上海が10だとすると深センは3だったのが、今はおよそ8です。産業モデルが違います。皆、北京や上海を短期間で見て暴落したと言います。中国の株式の時価総額がどれだけ増えてきたのか、そのような見方をしないと不公平ですよ。

インドのインフラは、他国のお金や技術もありますし、恐らく中国の人も来るでしょう。徐々に改善されていくと思います。

参加者 | 中国共産党の考えは一種鎖国というか、メディアやネットを規制していく。北の方の考え方はそうでしょうけど、南はそうではない。果たして北の鎖国的な動きと地方の流れていく動き、どちらに流れていくのでしょうか。

勝池 | やはりお金が出て行くでしょうね。今までの改革開放は、自国の税金を低くして外資が欲しいわけです。でも今は外資が山ほどあります。だったら外資を買収する投資の論理の方が勝つと思います。

国有企業は一つの街のようになっていますが、不良債権は山ほどある。でも13億人の国が、全部バラバラにやっていたらできるわけがない。

国有企業は一つの秩序だと思います。インドでいえばカースト。ガンジーはカーストに反対していたわけではない。今でも憲法上ではカーストによる差別は駄目ですけど、カースト自



長期投資仲間通信「インベストライフ」

体は生きています。カーストがなかったらまとまらないでしょう。私は国有企業やカーストにしろ、大きな国や人口をまとめる秩序だと思います。

ただ、これからどういう方向になるかという、反対カースト、反対国有企業になると思いません。

今までの中国はお上が主導で民間はなかった。ところが今はアリババのように民間が立ちあがった。逆にインドの場合、今までお上があまりたいしたことなかった。やっと政治主導のものができた。それがナレンドラ・モディです。

岡本 | カーストという差別はなくても枠組みがある。それによって秩序が保たれている。それを考えると、今のアメリカはどうでしょうか。そこでカーストができるとは思いませんが、あのよう極端に枠組みを取り払い自由にやりなさいと言った時にいろいろな問題が起きました。人間の意識のレベルがまだ十分に高まっていないのかもしれないですね。トランプさんの政策を支持する人が多いのは急速に枠がなくなったことに対する揺り戻しなのでしょう。

勝池 | アメリカは大投資家が多いでしょう。トランプ政権が何をやったかわからないけど、今でも株価は高いですね。やはり、先ほどの体・頭・気を使うと比べると、アメリカは金を使う国だと思いますよ、サブプライム等も含めて。シリコンバレーの30%のスタートアップはインド人ですから。ただ最近少しおかしくなってきたのかなと思います。今までの規範となるようなものが逆になってしまっている。習近平が自由貿易や環境だと言いだしてきましたね。長く広く見ることで立ち位置がわかりますから、そうやって考えられるといいでしょう。

ところがメディアでもなんでも短くて狭い。「今日の寄り付き」とか「今日の株価」とかね。世間では長期分散投資が金科玉条になっていますが、毎日見聞きしているモノはすごく狭くて短い。2050年なんてすぐですよ。あるアメリカの銀行の調査によりますと2050年の世界第4位の経済大国はインドネシア、5位がナイジェリアになっています。そういう見方もあるということです。私達のマインドは、「ずっとアメリカが一番で、中国がそのうちこける。」「インドはたまたまで、モディがいなくなったらどうなるの」で止まっています。

私が考える投資は3種類あります。私達がやっているのは証券投資です。ところがもっと先に教育投資があります。教育投資は人間を育てるための投資ですね。設備投資は会社を育てるための投資です。証券投資は自分の資産を育てるための投資です。

教育投資に短期投資なんてないでしょう。設備投資も短期設備投資はないですね。全部が長期投資。もともと投資は長期です。教育投資には留学があるでしょう。留学はダイバーシティの学習です。企業の投資も、今日本企業の対外直接投資は150兆円。ダイバーシティされています。つまり国際分散投資は当たり前の話です。そして、どの投資にもリスクは必ず存在します。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

人生の中には必ず教育投資があり、設備投資があつて、証券投資があります。シニアには教育投資や設備投資が終わっているので、証券投資を考えるわけです。その中の一つとしてインドの話をしました。

ゴルフで言うとドライバーみたいなものです。高い弾道で長く飛ぶ。金利は低いし、インフラは整った、つまりフェアウェイみたいなものです。今、14本のゴルフクラブが使える中で、今までの日本の投資家ゴルファーが持っていたクラブは、毎月分配のショートアイアンしか持っていなかった。どうしてドライバーを使わないのか。それを勧めるのがフィナンシャル・アドバイザーだと思います。いつでもショートアイアンならOBも出なくていいですけど、ゴルフにならないでしょ？全日オープンで戦いたいという気概を持てば、みなさんは勝てると思いますよ。

岡本 | 今日はどうもありがとうございました。